

第4学年 道徳科学習指導案

令和5年11月22日(水)5校時

西原小学校4年2組 計32名

授業者 仲宗根 表吾

共同研究者 田盛 千恵美

横山 彩

1 主題名・教材名

主題名:「見えないきまり」C(11) 規則の尊重

教材名:雨のバスでいりゆう所で(出典「小学校どうとく ゆたかな心4年」光文書院)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

【第1学年及び第2学年】

約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にすること。

【第3学年及び第4学年】

約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。

【第5学年及び第6学年】

法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。

【中学校】

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、規律ある安定した社会の実現に努めること。

児童が成長することは、同時に所属する集団や社会を構成する一員として集団や社会の様々な規範を身につけていくことでもある。そのためにも、約束やきまりを進んで守ることができるようにすることが必要である。規則の尊重は、身近な集団におけるよりよい人間関係づくりや人間関係における規範意識について考えさせるためにも、重要な内容項目である。

中学年の段階においては、気の合う仲間や集団の中にきまりをつくり、自分たちできめたことを大切にしようとする傾向がある。また、一人一人が身近な生活の中で、約束や社会にきまりと公共物や公共の場所との関わりで考えることは少ない。このような時期だからこそ、集団生活をする上で、一人一人が相手や周りの人の立場に立ちよりよい人間関係を築くことの大切さや、集団の向上のために守らなければならない約束やきまりの必要性を十分に考えさせたい。

そこで、自分の思いのままに行動するのではなく、集団や社会のために自分が何をすればよいのか、また、自分に何ができるのかを考え、約束やきまりを守って行動しようとする判断力が大切であると考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、生活の中で様々な約束やきまりに触れることを通して、「約束やきまりは、守らなければならない」「約束やきまりは大切である」「約束やきまりがあるから安心・安全に生活ができる」といった意識を持っている。しかし、なぜ大切かを問うと「守らないと自分が怪我をしたり、怒られたりするから」「守らないといけなものだから」といった理由を挙げており、あまり深く考えていない。約束やきまりが大切であるという意識と行為が必ずしも一致しているとは言い難く、特に集団や社会のきまりについては、どのようなときでも守ることはできていない。「急いでいるから」「面倒だから」といった自分の都合で行動したり、自分勝手な解釈で生活してしまったりする姿がみられる。そこで、本時の学習では、社会生活においては、きまりだから守ると言うことだけでなく、自分で判断し、相手や周りの人の立場に立って行動しようとする道徳的判断力を育てていきたい。

(3) 教材について

教材「雨のバスでいりゅう所」は、主人公のよし子が雨の日のバス停留所での並び方をめぐって、自分本位な行動を振り返り、どう行動すればよかったのかを考えるという教材である。

バス停留所では、バスに乗る人達が軒下で雨宿りをしながら待っていた。そこでは、早く来た順に並んでおり、よし子達もその中に入ってバスが来るのを待っていた。遠くにバスが見えたとき、よし子は雨の中を真っ先に駆け出し、停留所の先頭に立った。バスに乗ろうとした時、母親に並んでいた場所まで連れ戻されてしまう。バスの中で、いつもと違う母親のこわい顔を見て、よし子は自分の行動を考え始めるという内容である。

児童にとって、バス停留所という日常生活との関連が薄い場面が中心となるため、展開場面で丁寧に押さえる必要がある。また、本教材の興味深いところは「決まりきったあたり前のきまり」ではなく、「明文化されていないきまり」つまり、「見えないきまり」に着目して考える点にある。「見えないきまり」に焦点をあてて考えていくことを通して、「きまり」の本質に迫ることができる教材と言える。

(4) 指導観について

本時の指導にあたって、まず導入で「どんなきまりがあるか」考えさせる。本研究との関連で「学校」と「学校外（地域）」に分け、ねらいとする道徳的価値に方向付け、本時の学習や教材への興味関心を高めていきたい。

展開では、児童の日常の生活場面と関連の薄いバス停留所や雨の日の状況を把握させて教材につなげる。基本発問として、「バスが見えたとき、駆けだしたよし子さんは、どんな気持ちだったでしょう。」と問い、「早くバスに乗って座りたい」という誰もが抱きやすい自己中心的な気持ちを捉えさせる。中心発問において、よし子の行動をどう思うかを思考ツール「心の数直線」で見える化させ、その理由を多面的に引き出ししていく。そして、「果たして軒下に並んだ順番でバスに乗るというきまりは、どこかに書いてあったのか。」とねらいを焦点化し、「見えないきまり」について深掘りしていきたい。「よし子はどうすればよかったのか。」と投影的に問うたり、「お母さんはなぜだまっただまだったのだろうか」と分析的に問うたりすることで、多面的・多角的に考えさせていく。自分でよく考えることが大切で、そのことによって、その場所や状況に応じて特別に変化したきまりのようなものに対応できることに気づかせたい。さらに、自分ごとに置き換えて他の公共の場においても周囲の状況をよく見て考え、周りの人に配慮したり、その場の特別に変化したきまりのようなものに気づき行動したりするきっかけとしたい。

終末では価値に対する思いや考えを温め、今後の学校生活や日常生活（地域）への実践意欲を高めたい。

3 校内研との関連

テーマ：自己肯定感を高め、未来に向かう児童の育成
～地域との関わりの中で自己を見つめる道徳教育を通して～

(1) 校内研究主題に向けた授業の工夫

○ねらいの明確化

「ねらいとする価値への追求の見通し」を示し、児童の考えを深める手立てとした。（本時の指導（2）参照）一般的な価値の自覚に加え、さらに深めたい児童の姿を想定しねらいに迫る。

○小集団での「話し合い活動」の工夫

「話し合い活動」は、3人トーク（座席の工夫）を基本とする。3人トークは、自分の考えを述べるのが苦手な児童にとって、自己表出しやすい。また、短時間で、その場で自分の思いや考えを表現したり、友だちの考えを聞いたりすることができ、それぞれが主体的な関わりができる。

○自己肯定感を高める工夫

→授業において

・「自己決定」…考える時間の確保（自己をみつめる）、考えを可視化

・「自己存在感」…つぶやきを拾う、自由に話せる温かい雰囲気、3人トーク

・「共感的人間関係」・・・「あいづち名人」「聞き方名人」「話し方名人」

→教育活動全体

・学年の合い言葉「ひとはみんなのために みんなはひとりのために」

・みつけタイムでのアウトプット

・みんなちがって みんないい

・学校には、ハッピーを買いに行こう！

・今月の詩

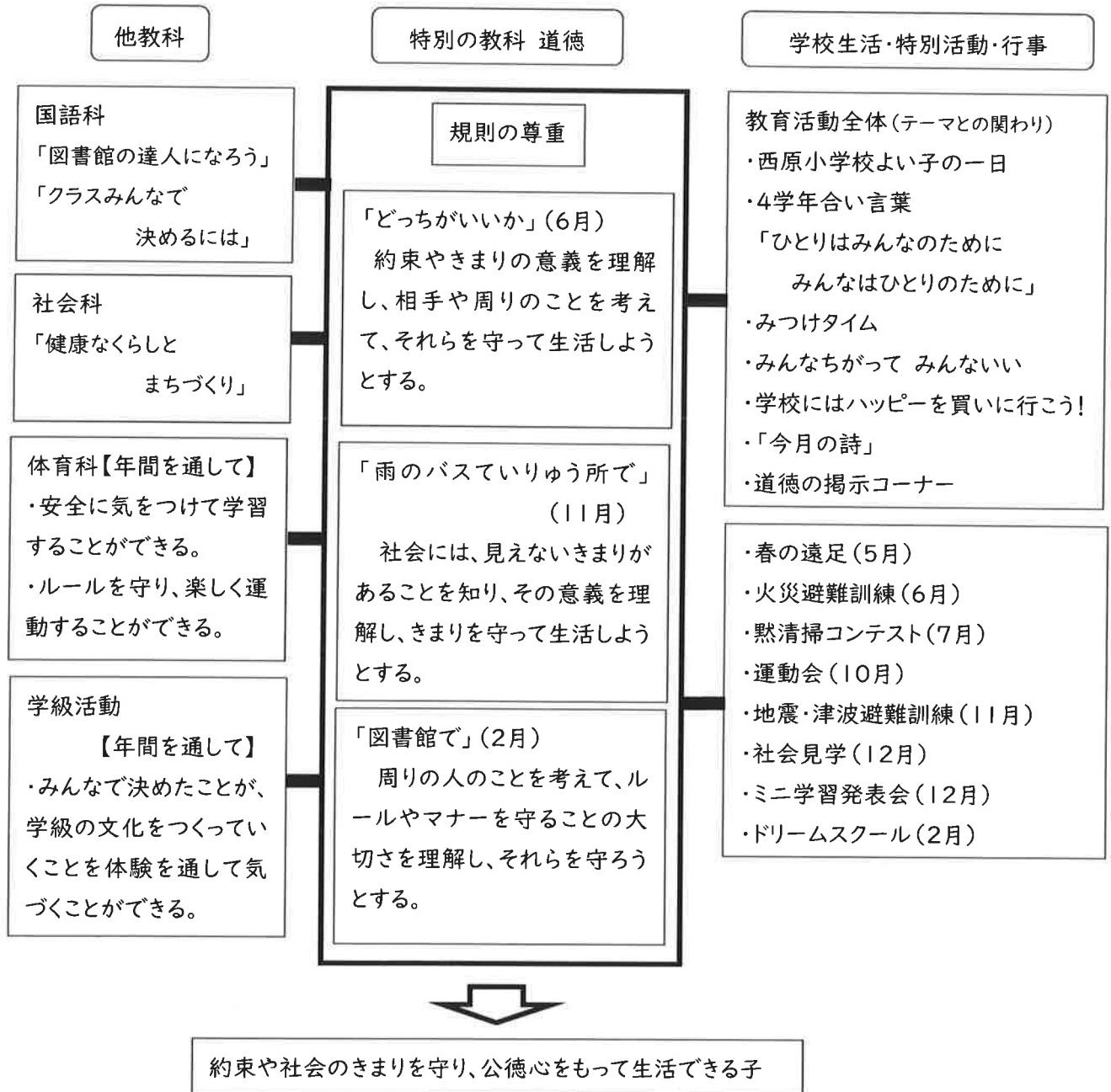
○地域とのかかわり

・地域人材の活用・・・書写、食育、福祉体験、ドリームスクール

・地域の特色・・・キリ学連携支援授業（感動、畏敬の念）、沖縄女子短期大学出前講座（個性の伸長）

・道徳的实践（ゲストティーチャー）・・・保護者（家庭愛）、自治会長（伝統と文化の尊重）

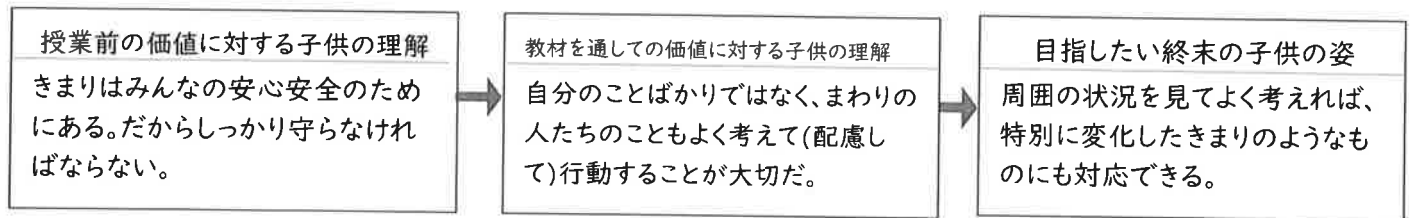
(2) 他の教育活動との関連



4 本時の指導（雨のバスでいりゅう所で 4年）

（1）本時のねらい 集団生活をする上で、相手や周りの人の立場に立って行動しようとする判断力を育てる。

（2）ねらいとする価値への追究の見通し



（3）本時の展開

段階	学習活動	主な発問 □基本・◎中心・○補助 ●児童の予想される反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入 5分	1 知っているきまりを挙げ、 どうやってきまりを知った のか全体共有する。	☐ どんなきまりを知っていますか。 ●廊下は走らない、右側を歩く ●チャイム黙想 ●自転車の乗り方 ●信号無視 ●青信号で道を渡る ☐ きまりをどうやって知りましたか。 ●聞いた ●習った ●書いてある	◆ねらいとする価値について方向づける。
展開 30分	2 「バスのでいりゅう所」の 範読を聞き、よしこさんの 行動について考える。 3 「○○○○きまりのような もの」について考える。 ・個人 ・3人トーク ・全体で意見交流	☐ よしこさんはどんな気持ちでバスに駆け寄って行ったのでしょうか。 ●早く乗りたい ●席に座りたい ●やっときた ●バス遅かったなあ ◎よしこさんの行動をどう思いますか。 ●あぶない ●ずるい ●自己中 ●子どもだから許される ○バスが来た時にどうすればよかったでしょう。 ●順番を守る ●歩く ●お母さんと一緒に動けばよかった ○なぜ来た順がいいのですか。 ●先に来ていた人が不満だから ●けんかがおこる ○図Bのよしこさんは何を大事にしているのでしょうか。 ●周りの人のこと ○図A、図Bで周りの人はどんな気持ちでしょう。 ●Bはいい気持ち ●Aは不満 ○お母さんはなぜだまっただまだったのでしょうか。 ●バスの中では迷惑だから ●よしこさんに考えてほしかったから ○見えないきまりはバス停だけでしょうか。他にありますか。 ●図書館 ●トイレ●スーパーのレジ	◆大まかな場面設定を確認してから教材と出会让せる。 ◆バス停や登場人物の立ち位置を図示しながら、状況を確認する。(図A) ◆よしこさんの気持ちに共感させる。 ◆よしこさんの行動を「いい」と思うか「悪い」と思うかを思考ツールを使い、見える化する。 ◆軒下からバスにどのような順で乗っていくのがよいのか考えさせながら、ねらいの焦点化を図る。(図B) ◆よしこさんの行動ととればよかった行動を対比させることでねらいに迫る ◆お母さんがだまっていた理由を考えさせることで、自分で考えることの大切さに気づかせる。 ◆多様な体験場面を想起させることで価値理解を図る
	4 「○○○○きまりのようなもの」が普段の生活の中にもないか考える。		
	5 振り返りをする。	☐ 振り返りをしましょう。 ●きまりが書かれていなくてもよく見てよく考えて周りの人のことを考えて行動していきたい。 ●周りの人のことを考えて自分勝手な行動はしないようにしたい。	◆振り返りのポイントの提示をする ◇みんなが気持ちよく生活するために大切なことについて考え、これからの生活に生かそうとしていたか。 【ワークシート】
終末 10分			

(4) 評価

- ①児童の評価 ○友達との話し合いで自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりして、考えを深めようとしている。(観察・発言・ノート)
- きまりは、他者への配慮の結果、よりよいきまりのようなものへと変化することについて考えようとしている。(観察・発言・ノート)
- ②指導の評価 ○ねらいを明確にし、児童に自我関与させながら考えをつなぐ授業展開ができていたか。
- 発問の工夫を行い、児童同士の話し合いや個人の考えを深めることができたか。

(5) 板書計画

⑤ ふりかえり
⑥ 他には...

① ① 自分 > 周り
よしこの行動
いい・わるい
あふふい
するい
自己中
うとも
だから
ゆるされる
しょうがない

② ② 自分 < 周り
来た順
のき下にならんでいた順に
バスに乗る
見えないうきまり
気づいてほしい
自分で考えてほしい

③ ③ 自分 < 周り
早く乗りたい
席に座りたい
やるときは
バスおろがたな
さむいからぬれたくない

④ ④ 自分 < 周り
雨のバス停リヤフ所で
きまりについて考えよう

⑤ ⑤ 自分 < 周り
知っているきまり
・ちうかは右を歩く
・チャイルドシート
・信号を守る
・青信号で道を渡る
どうやって知った?
聞いた・習った
書いてある

(四)

名前

名
印

二六九

◆ 子曰如也

[illegible]

◆今日の授業を終えて

$\frac{1}{2} \rightarrow \frac{1}{2}$

登場人物のことを考えることができたが。	5	4	3	2	1
答えを出そうとがんばったが。	5	4	3	2	1
自分のことについても考えることができたが。	5	4	3	2	1
勉強したことを大切にしていこうと思ったが。	5	4	3	2	1
このお話はよかったが。	5	4	3	2	1



社会のおもひ

わたしたちのまわりの世、たまたまはおもひがめぐります。
おもひは何のためにもあるのだとしよう。

22

雨のバスでいりゆう所へ



今日は、よし子さんがお母さんといっしょに、おばさんの家に出かける日です。ところが、朝から雨がふつていて、家を出るときには、雨はいつそう強くなり、おまけに風もふいてきました。バスのでいりゆう所では、バスを待つ人たちが、雨やどりをしながら、バスが来る方々をときどき見えています。

遠くの方に、小さくバスが見えました。よし子さんは、雨の中へタツタツとかけだすと、でいりゆう所でいちばん先頭にならびました。バスが来たことを知った人たちは、ぞろぞろとでいりゆう所に向かつて歩き始めました。



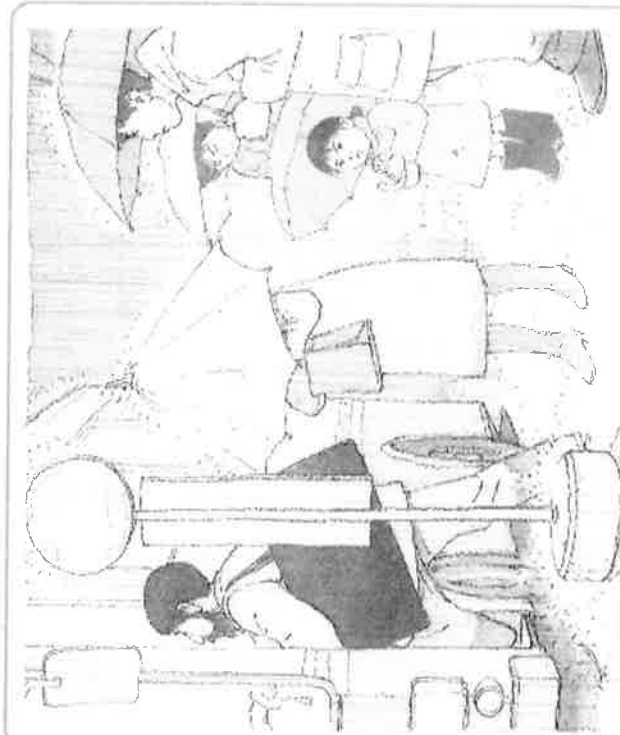
そのときです。後ろの方で、お母さんの声が聞こえたように思いました。でも、よし子さんはべつに気にもしませんでした。

バスが止まりました。よし子さんがかさをすばめようとしたとき、かたが強い力で後ろの方に、ぐいと引かれました。びっくりして振り返ると、お母さんの手でした。

よし子さんは、はっとしました。

それでもお母さんは何も言わないで、よし子さんをお母さんがならんでいた所までつれていきました。いつもどちがつてとて、もこれそうが願でした。





バスに乗る人たちの列が動き始めました。よし子さんは、荷を機に出して、ならんでいる人の数を数えました。よし子さんに前から大目玉でした。一人一人がかまそきばめてバスに残るのだ、いつもとちがって時間がかかります。(前の人たちは、どうして早く乗ってくれないのだろう……)

よし子さんは、少しじりじりした気持で前へ進みました。



バスに乗りました。でも、もうやせきは空いていませんでした。「ほら、こちらがよい。」と言うつもりで、よし子さんは機に立っているお母さんの顔をじりじり見ました。そんなよし子さんに知らぬかりをして、お母さんは、だまごたまごまごの外をじりじり見つめています。いつでもなら、やさしく話しかけてくれるお母さんです。でも、今日のお母さんは、いつもとはぜんぜんちがうのです。

そんなお母さんの横顔を見ていたよし子さんは、自分がしたことまできり始めました。バスのまどには、大づから向かいおりにうしろを付けていました。

●お母さん、よし子さんは、お母さんの横顔をじりじり見ています。



社会のおまりを返すために返すのが、あらためて返すつもりで。



社会のおまりを返すつもりで返すのが、あらためて返すつもりで。

